

第8章

職業能力開発
短期大学校

東京建築カレッジ



第1節 東京土建技術研修センターの概要

1. 設立母体

- (1) 建設業に従事する労働者、職人と事業主、親方が組織する「東京土建一般労働組合（1947年に結成、委員長矢部正・組合員数12万人）」が設立母体である。
- (2) 昭和47年（1972）、東京労働基準局指定教習機関の認定を受けた東京土建建設技術研修センター発足。平成6年（1994）に職業訓練法人格を取得し、東京土建技術研修センターとして東京建設カレッジほか、諸事業の運営を行う。

2. 建設技能者の育成方針

- ☆大都市“東京”で建設技能者の育成を行う。
- ☆都市型の技能者育成システムの確立をめざす。
- ☆建設労働組合として“現代の職人像”の確立めざす。
- ☆その実現のため、建設各職種の技能労働者の生涯像を確立する。
- ☆生涯像の各段階に対応する、生涯教育訓練体系を整備する。
- ☆生涯教育訓練のための教育体制の中核的機関を設立する。
- ☆多種の建設関係職種に対応するため、多種多様なコースを開設する。
- ☆従事者の教育ニーズに応えるため、多種多様な向上訓練コースを設置する。
- ☆人材育成における職種間の連携を通して“ヒト”のネットワークを構築する。
- ☆オープンカレッジを開講し、“地域に開かれた学校づくり”をめざす。
- ☆外国人研修生の受け入れについて検討する。

〔東京建築カレッジ・実施計画〕＝1994年5月）

3. 活動内容

☆年間約4千人の資格取得・技能向上にむけた各種の講習会を開催。

☆資格取得の講習会

- ◎作業主任者講習（木造建築物組立て作業・足場の組立て解体作業・地山の掘削作業・土止め支保工作業・型枠支保工作業・鉄骨の組立て等作業・コンクリート工作物解体等作業・木材加工用機械作業・有機溶剤作業・酸素欠乏危険作業＝'97年秋・特定化学物質等作業＝'97年秋）

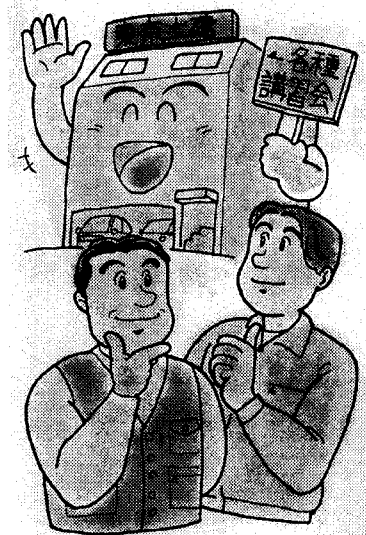
- ◎職長教育 ◎増改築相談員研修 ◎木造住宅耐震診断講習

☆資格受験準備の講習会

- ◎2級建築士受験準備 ◎建築施工管理技士事前講習
- ◎1級『型枠』技能検定事前講習

☆技能向上・特別教育などの講習会

- ◎パース講座 ◎ガス溶接技能講習 ◎アーク溶接特別教育 ◎小型移動式クレーン運転技能講習 ◎高所作業



図表-1 活動内容

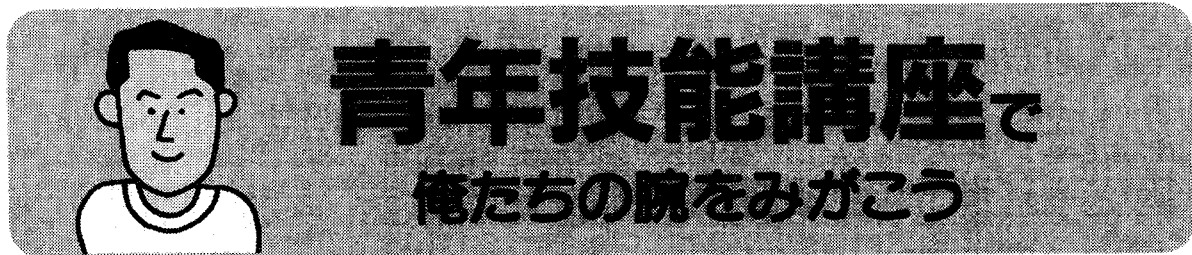
車運転技能講習 ◎玉掛技能講習 ◎車両系建設機械運転運転技能講習 ◎ゴンドラ取扱業務特別教育 ◎フォークリフト運転技能講習

☆OA技能講習

◎CAD講習 ◎パソコン講習

☆青年技能講座

◎規矩術入門講座 ◎塗装青年講座



規矩術入門講座

課題◆四方転び踏み台と棒剛木の原理

若い組合員を対象に、規矩術ビデオも使って規矩術の入門から中級までとります。入門講座では、全建総連青年技能競技大会の課題(四方転び踏み台)にとり組み、その準備講座として位置づけ大会への積極的参加をよびかけています。

技能講座		内容
第1講座	建築基礎 規矩術とは①	さし金の目盛は表目と裏目がある 勾(こう)・交(こ)・玄(げん)とは(丸目、角目、天皇尺) 棒剛木の原理学習
	利用、応用法②	直角と等線。表目と裏目を利用して かいてみる 屋根勾配、隅部分の型板の取り方
第2講座	原寸図作成	四方転び踏み台
	実技	四方転び踏み台作成
第3講座	実技	四方転び踏み台作成完成

二級建築士受験準備講座

二級建築士をめざす受験者を対象にした受験準備講座です。ベテランの講師陣によるていねいな指導と、建築現場で働く者の立場にたった講座運営で、例年抜群の合格率です。

二級建築士の受験資格は

義務教育修了者……建築に関して7年以上の実務経験を有する者
工業高校(建築・土木科)卒業生……建築に関して3年以上の実務経験を有する者

募集期間 11月1日より1月中旬

講習時期と内容 1月中旬より7月上旬まで、以下のような内容でおこないます。

- ①普通講習 毎週火曜・金曜、午後6時30分から午後9時
計画、法規、構造、施工の4科目
- ②補講 日曜日4回補講をおこないます。
- ③学科模擬試験 日曜日4回模擬試験をおこない合格ラインを示します。
- ④製図基礎講座 製図専門講座に入る準備段階として、初めて製図を学ぶ人にもわかりやすく用具の扱い方から建築製図の基礎的な知識を指導します。

定員 70人

講習会場 東京土建技術研修センター

学科試験終了後、7月中旬から9月下旬まで、製図専門講座を開講します。

図表-2 技能講習内容

第2節 東京建築カレッジについて

1. 短大（建築カレッジ）開校の経緯

- 1958年 職業訓練法第16条に基づく、大工を対象とした東京土建新宿職業訓練所を開設する。
- 1959年 同訓練所は左官・塗装・板金・建具など、大工以外の職種の募集開始。
- 1960年 東部職業訓練所を開設する。
- 1967年 東京土建新宿訓練所が職業訓練法人格を取得する。東京土建職業訓練協会となる。
- 1976年 同協会は、15期生の卒業生をもって18年間の活動を終える。
- 1992年 東京土建第45回大会で、「技術研修センター構想」が提案・承認される。
- 1994年 東京都より職業訓練法人・東京土建技術研修センターの認可を受ける。
- 1995年 3月東京都より職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ高度職業訓練専門課程居住システム系建築科の認定を受ける。
- 1996年 4月開校。東京建築カレッジ1期生入学。
- 1997年 4月東京建築カレッジ2期生入学。同4月練馬実習場開設。

2. 方針と目的

(1) 教育方針

- ① 働きながら、建築の技能、技術を習得させ、創造力のある豊かな人材を育成する。
- ② 新しい時代の建築スペシャリストを育てる。
- ③ 伝統技能・現代の技術をともに学ぶ。

(2) 教育目的

新しい時代の建築スペシャリストを育てる

環境、文化、生活、経済を支える建設産業ですが、新しい世紀では自然との共生、持続、保全での役割が重くなるでしょう。現場での仕事は、コンピュータやロボットも大いに活躍するでしょうが、その一方で、人間が手を加えたり、判断したりする仕事が尊重されるようになるでしょう。モノづくりの技能と技術を学び、身につけた人材こそが、新しい時代をになう建築スペシャリストなのです。

「働きながら学ぶ―職場も教室」。実際の仕事を通じて、その裏付けとなる基本技能や技術を身につけていくというのが、「東京建築カレッジ」のカリキュラムの基本です。学校では経験豊かな先輩の指導陣が、実技を基本にしながら指導します。そして、関連した座学を織り込み、基本と応用、伝統とハイテクなどをバランスよく配置しています。

カレッジでは、卒業後も資格習得や能力向上など、生涯にわたって利用できる「技術研修センター」、地域社会に開かれて「オープンカレッジ」などのプログラムも整備し、働く仲間や市民から親しまれ、信頼される学校にしたいと考えています。



学校長 藤澤 好一
(芝浦工業大学教授・工学博士)

(3) 建築カレッジの概要**① 募集学科**

高度職業訓練専門課程 居住システム系建築科

② 対象者（応募資格）

建築の仕事にたずさわりながら建築技術・技能者をころざす意欲ある方で、下記のいずれかに該当する方（実務経験の有無，性別を問いません）。

(ア) 高等学校卒業以上 (イ) 18歳以上で、学校長が(ア)と同等と認めた方

③ 訓練期間

2年間《1年間45週で毎週2日間（金）・（土）および集中9日間ほか月平均1回（金，土）以外登校》

④ 定員

20名

⑤ 入学資格

入学試験（面接・作文）に合格するとともに、入学時以降、カレッジへの通学・学習を保障する建築関係事業所に入職していること。

⑥ 施設**東京土建技術研修センター（東京建築カレッジ）**

☆住所：東京都豊島区池袋1-8-6

☆敷地：309.56m²

☆建物：延べ1027.30m²……3階 デザイン室・図書室
2階 情報処理室・中教室・事務室
1階 製図室・予備教室
地下 基本実習場・倉庫

東京建築カレッジ・練馬実習場

☆住所 東京都練馬区高野台4-10-5

☆敷地 234.78m²

☆建物 延べ345.65m²……3階 休憩室・事務室
2階 教室兼実習場
1階 実習場

主な実習設備・機器

●万能木工機 ●ほぞ切機 ●角のみ機 ●卓上ボール盤 ●電気かんな ●大型研磨盤 ●ベンダー
カッター ●油圧式MR型万能試験機（30t） ●電子式x-y記録装置 ●梁の曲げ試験用設備一式
●継手実習用装置一式 ●電子天秤 ●コンクリート曲げ型枠一式 ●モルタルフロー試験器一式
●骨材吸水試験器 ●小型乾燥機 ●木材水分計 ●CAD用パソコン20台 ●サーバー用パソコン
●デジタルカラープリンタシステム ●建築設計支援システム ●測量機器（プリズムアリダード、
オートバル，トランシット，光波距離測定器，平板測量機） ●普通騒音計 ●広帯精密騒音計
●デジタル照度計 ●デジタル粉塵計 ほか

⑦ 職員数

登録専任講師（非常勤）	53名
社外講師	23名
技術センター職員	6名

⑧ 組織運営

理事会

教務運営委員会（6名・毎月1回開催）

分野別担当者会議（必要に応じて開催）

講師・指導員全体会（年1～2回開催）

3. カリキュラム

(1) 居住システム系建築科

① 訓練目標

モノづくりの技と知とーカリキュラムの全体像ー

中心は木構造住宅施工

東京建築カレッジでは木構造住宅を中心に、建築を学びます。下記のカリキュラム表にあるように施工系、構造系、計画系の各領域から、それぞれ専門的実技・実験・実習を重視し、伝統技能の基本から高度な専門知識・技能まで、現代的技術を総合的に学びます。住宅づくりは、単なるモノづくりではありません。住み手が安心して快適に暮らすことのできる、人と人とのつながり、生活の質の向上への取り組みと不可分です。カレッジでは、モノづくりとともに豊かな社会創造への視点も重視します。

生涯を通じて生きて働く、建築の仕事の技と知と、心を!

……それがカレッジのめざすものです。

② カリキュラム体系 (科目名・年間教育時数)

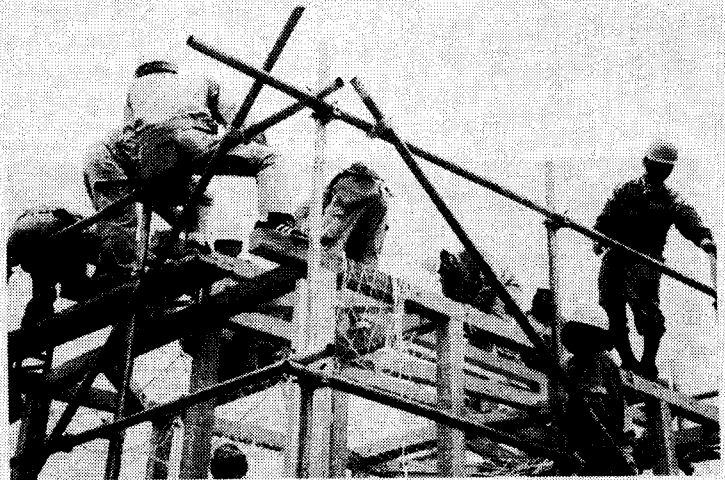
カリキュラム表		
専門実技科目	専門学科目	一般教養・選択科目等
施工系 木造工作実習ⅠⅡ 木造施工実習ⅠⅡⅢ 建築施工実習Ⅰ 建築施工計画実習 建築測量実習	施工系 木造工作法 安全工学 木造施工法 建築施工・建築生産 建築測量 建築積算	教養集 教養ゼミⅠⅡⅢⅣ 教養講座ⅠⅡ 保健健康ⅠⅡ スポ・レクⅠⅡ
計画系 基礎製図 デザイン実習 プレゼンテーション 建築設計製図ⅠⅡⅢⅣ 環境工学実験	計画系 建築史 建築環境工学ⅠⅡ 建築設備 住宅計画 建築計画ⅠⅡ 建築法規	分散実習 課題演習ⅠⅡⅢⅣⅤ 課題演習ⅥⅦⅧⅨⅩ OJTⅠⅡ 卒業製作
構造系 建築構造力学実験 建築構造実験 建築材料実験 建築構造設計製図	構造系 建築材料ⅠⅡⅢ 建築構造力学ⅠⅡⅢ 建築構法 建築構造設計ⅠⅡ	総合実習 調査研究ⅠⅡⅢⅣ OJT報告会 卒業製作発表会 技能照査
情報処理 コンピュータ実習ⅠⅡⅢ	情報処理 コンピュータⅠⅡ	その他 入学式 卒業式 オリエンテーション

◆毎週(金)(土)が登校(集団訓練)日で、2年間です。一年次の4月には連続9日間の集中研修があります。授業時間は、一年次合計 1318時間 二年次合計 1486時間で2年間で2804時間となります。

図表-3 カリキュラム体系

住宅施工の プロセスを軸に

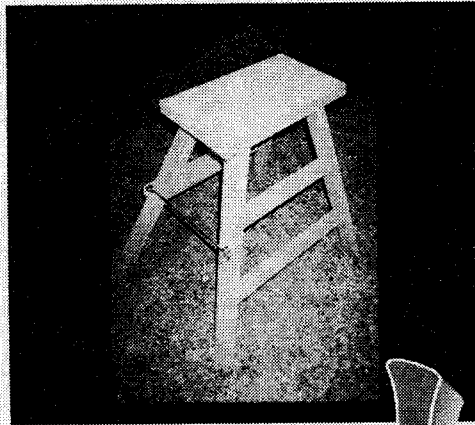
実習の基本は木構造施工です。ノミ・かんなの手工具の道具づくりに始まり、継ぎ手、仕口工作の実習をふまえて、建物実習（2階建て）に取りくみます。造作施工、規矩術、施工管理など1軒を完成させる施工の基本的プロセスを軸に学習します。



屋上（池袋校舎）で棟上げの実習に取り組む一期生。



彫る手はわが感性。

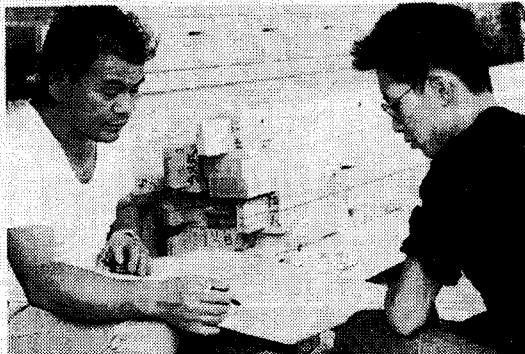


四方ころびの脚立。規矩術の基礎を学ぶ（一期生作品）。

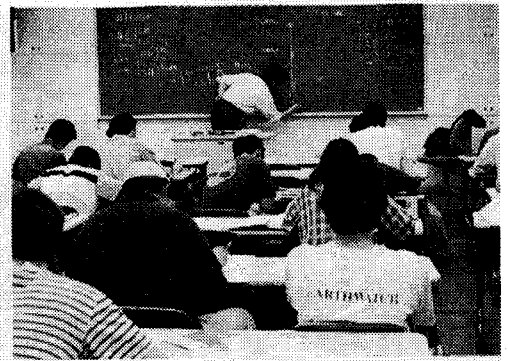
働きながら学び、 学びながら働く

現場実務の一部をカレッジの授業時間として認定します。学校では一日のほぼ半分が学科、半分が実習です。

技と



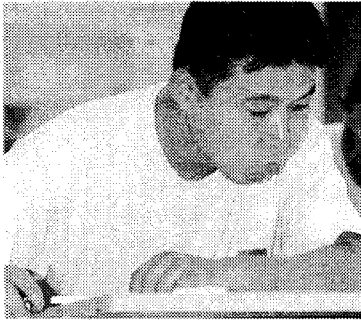
作業場での指導もカレッジの一部。



技能と技術をつなぐ授業を求めて。

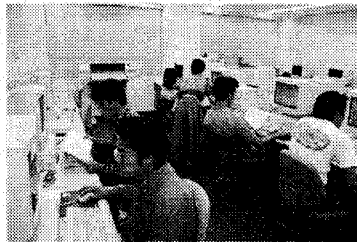
図表-4

柔軟な発想と構想力 充実した専門実技

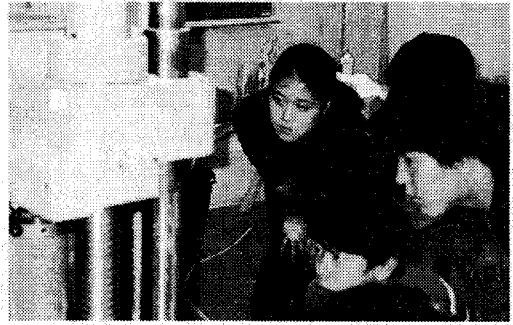


基礎製図に集中。

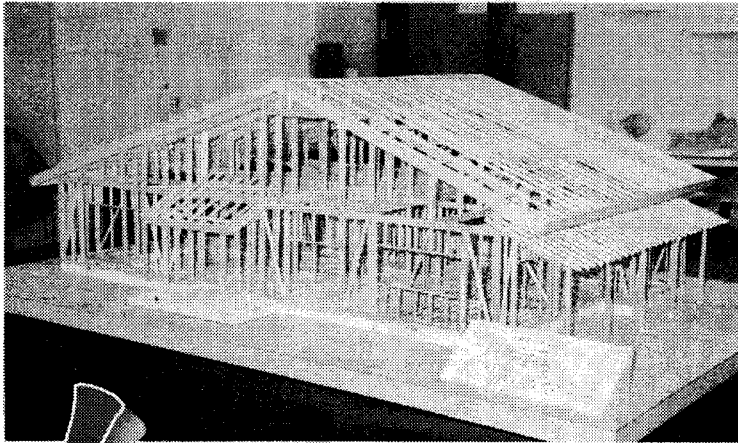
建築材料の実験や環境工学、構造力学の実験では、材料、環境、構造の特性を科学的に検証します。造形感覚、平面から立体、立体を平面へイメージ転換する技能や柔軟な発想と構想力を重視するデザイン実習、プレゼンテーション。また、製図の基本をふまえて設計製図演習も必修です。キャドを使って造形世界をさらに広げます。



キャド実習の風景。



コンクリートや木材等の強度を検証する材料実験。



先生の設計した住宅の構造模型(1/20)をつくるプレゼンテーション(一期生作品)。



キャドで椅子のモデリングとカラーシュミレーション(一期生作品)。

知と

青年期の学習と仲間づくり

生涯の職業生活の土台となる青年期の学習と仲間づくりを重視します。先達の生き方や苦勞に学びモノづくりの専門家としての誇りと心意気を継承します。



スポーツは青年の要求 — 信州上田・菅平で宿泊研修。

図表-5

③ カリキュラムの解説

カリキュラムの特徴として、各区分共「住宅」「木質構造」および「木造施工」に多少比重を置く。

(ア)「建築計画」の領域は、歴史、環境工学・設備、計画・設計、法規の科目からなり、住環境・住宅計画など“住宅”関係の内容に多少重みを置く。

(イ)「建築構造」の領域は、構造力学、材料、構造の科目からなり、木質材料および木質構造に多少の比重を置く。

(ウ)「建築施工」の領域は、木造施工、建築施工、測量、施工計画、安全等の科目からなり、施工におけるソフト面およびハード面の技術を統合する。

(エ)「その他」の領域は、コンピュータ技術の科目からなり、建築に係る情報工学のうちソフト的内容については、CAD、積算、各種実験など、各専門科目の中で教授するものとする。各区分とも、基準の科目と対応し、標準時間もクリアしている。

(オ)「一般教養」は、社会科学、自然科学、保健・レクリエーションの科目からなり、その教育目標および教科目の内容の詳細は、別途「一般教育科目計画」に表す。

(カ)「分散教育」は課題演習、OJT、卒業制作の科目からなり、集合教育 \leftrightarrow 自己研鑽 \leftrightarrow 事業所内教育を連結する教育を実施する。

課題演習は、主として集合教育各教科目の演習を行う科目で、演習問題、課題製作（設計製図、模型、学習課題等）、実験・実習レポート作成、学科目の宿題などからなる。

OJTは、主として集合教育各教科目で学んだ知識・技能を実務の場で確認し実践する科目で、計画的に実施し、その内容は各自記録して報告するものとする。

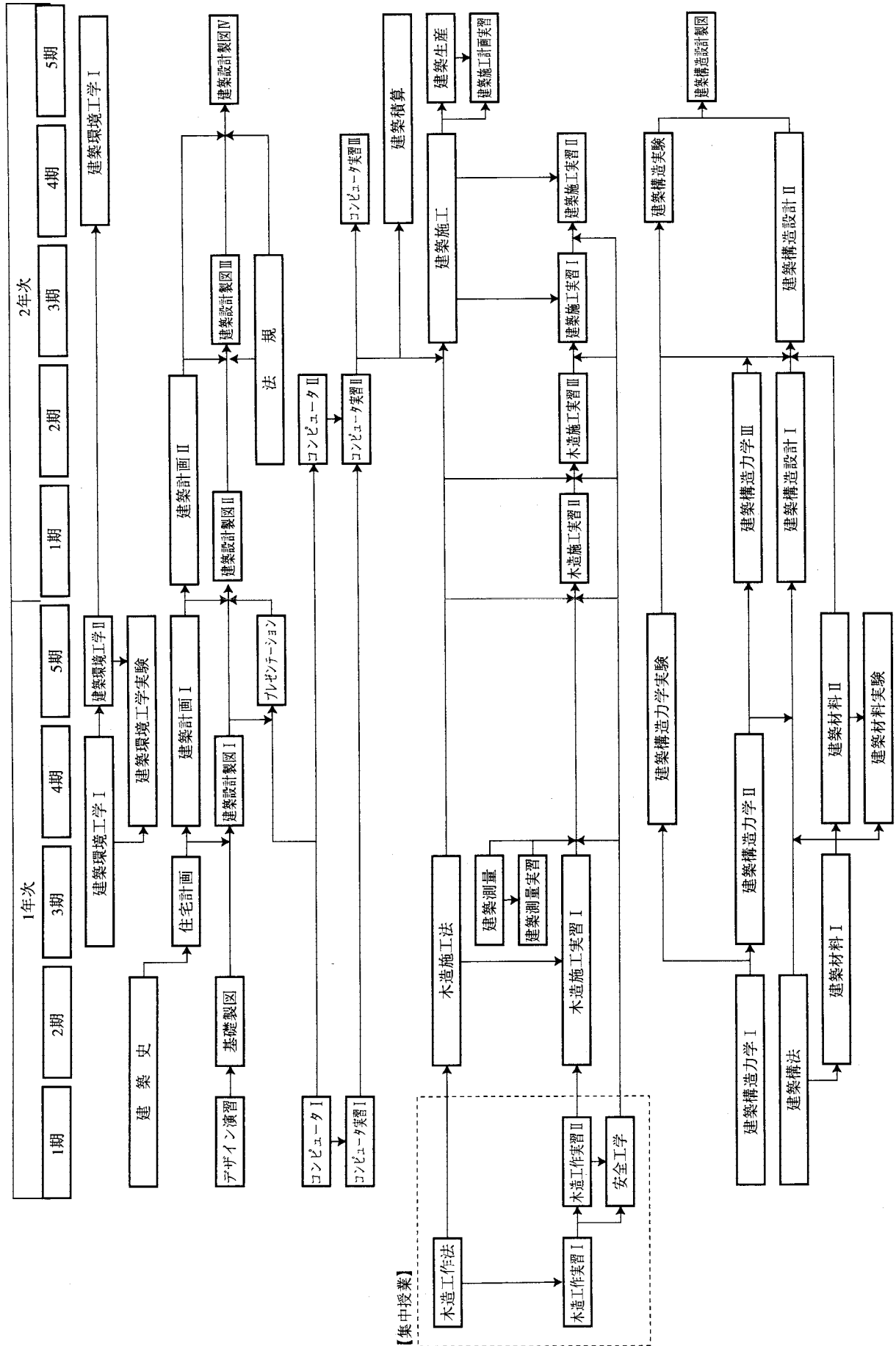
卒業製作は卒業設計、卒業研究、卒業製作のいずれかについて、各自またはチームでテーマを持ち、製作する。

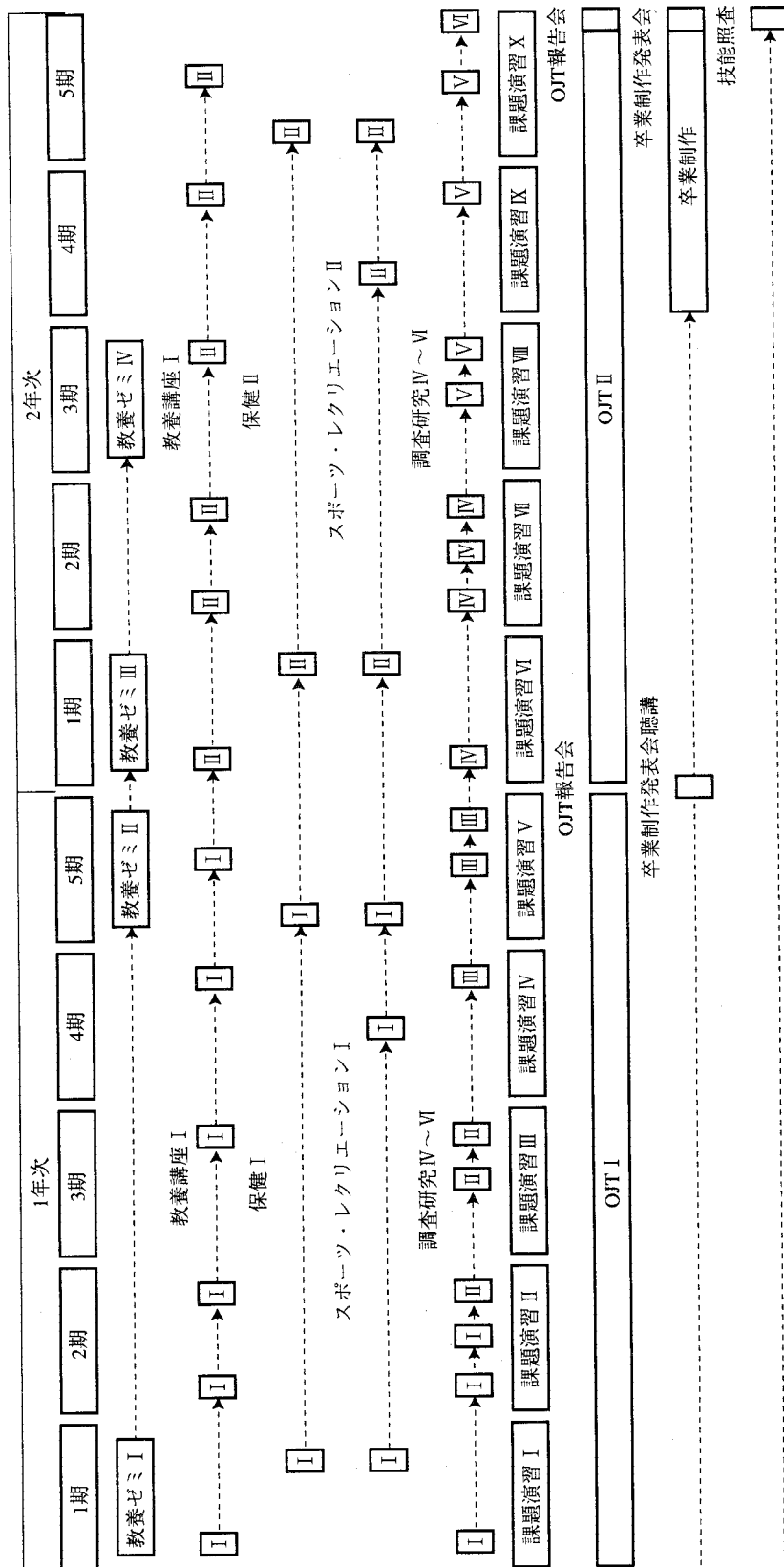
(キ)「総合」は、調査研究、OJTおよび卒業製作の報告会、技能照査の科目からなる。

調査研究は、学外で実施する科目で、建築物・工事現場・展示場・工場・研究機関等の調査・見聞を通して、建築技術の理念や応用などについて学ぶ。

報告会は、分散教育の成果を公表し、評価する。

技能照査は、2年間の教育訓練の成果を確認するもので、合格者は修了の資格を得るとともに、“技能士補”の称号を獲得する。





図表-6 東京建築カレッジ・カリキュラムの構造化

区分	科目 番号	開講科目	授業時間		1年次					2年次									
			系基礎	専攻	1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期					
A 専 門 学 科 目	建築計画	101 建築史	36		18	18													
		102 環境工学Ⅰ	36				18	18											
		103 環境工学Ⅱ	18							18									
		104 建築設備	36											18	18				
		105 住宅計画	18					18											
		106 建築計画Ⅰ	36							18	18								
		107 建築計画Ⅱ		36								18	18						
		108 建築法規	36									18	18						
	建築構造	201 建築材料Ⅰ	18			18													
		202 建築材料Ⅱ		18			18												
		203 建築材料Ⅲ		36				18	18										
		204 建築構造力学Ⅰ	36			18	18												
		205 建築構造力学Ⅱ		36					18	18									
		206 建築構造力学Ⅲ		36								18	18						
		207 建築構法	36			18	18												
		208 建築構造設計Ⅰ		36								18	18						
		209 建築構造設計Ⅱ		36										18	18				
	建築施工	301 木造工作法	20		20														
		302 安全工学	16		16														
		303 木造施工法		36						18	18								
		304 建築施工		36										18	18				
		305 建築測量		18									18						
		306 建築積算	36													18	18		
		307 建築生産	18															18	
	その他	401 コンピュータⅠ	18						18										
		402 コンピュータⅡ	18											18					
	授業時間合計			432	324														
				756		36	72	72	90	90	54	0	72	90	72	72	54	0	

B 専 門 実 技 科 目	建築計画	101 基礎製図	36			36													
		102 デザイン演習	36			36													
		103 プレゼンテーション		36						36									
		104 建築設計製図Ⅰ		36						36									
		105 建築設計製図Ⅱ		36								36							
		106 建築設計製図Ⅲ		36										36					
		107 建築設計製図Ⅳ		36														36	
		108 建築環境工学実験	18									18							
	建築構造	201 建築工学力学実験	18								18								
		202 建築構造実験	18												18				
		203 建築材料実験		36					36										
		204 建築構造設計製図		36														36	
	建築施工	301 木造工作実習Ⅰ	20		20														
		302 木造工作実習Ⅱ	16		16														
		303 木造施工実習Ⅰ		36						18	18								
		304 木造施工実習Ⅱ		36								36							
		305 木造施工実習Ⅲ		36									36						
		306 建築施工実習Ⅰ		36										36					
		307 建築施工実習Ⅱ		36											36				
		308 建築施工計画実習		18														18	
		309 建築測量実習		18										18					
	その他	401 コンピュータ実習Ⅰ	18				18												
		402 コンピュータ実習Ⅱ	18										18						
		403 コンピュータ実習Ⅲ	18													18			
	授業時間合計			216	468														
				684		36	54	36	36	90	54	0	72	72	72	72	90	0	

(注) 安全作業法は、「木造工作実習」の他、全実技科目に包括。

図表-7 東京建築カレッジ開講科目 (履修学期別) 1

区分	科目 番号	開講科目	授業時間	1年次					2年次											
				1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期							
C 一般教養科目・選択科目等	一般教養	101 教養ゼミⅠ	18		18															
		102 教養ゼミⅡ	18																	18
		103 教養ゼミⅢ	18									18								
		104 教養ゼミⅣ	18										18							
		105 教養講座Ⅰ	24		4	8	4	4	4											
		106 教養講座Ⅱ	24								4	8	4	4	4					
		107 保健・健康講座Ⅰ	8		4															4
		108 保健・健康講座Ⅱ	8								4									4
		109 スポーツ・レクⅠ	16		4				8	4										
		110 スポーツ・レクⅡ	16								4				8	4				
		分散教育	201～5 課題演習Ⅰ～Ⅴ	270		54	54	54	54	54										
206～10 課題演習Ⅵ～Ⅹ	270									54	54	54	54	54						
211 OJTⅠ	180			36	36	36	36	36												
212 OJTⅡ	180									36	36			36	36					
213 卒業制作	144														72	72				
総合	301 調査研究Ⅰ	16		4	12															
	302 調査研究Ⅱ	16			4	12														
	303 調査研究Ⅲ	16					4	12												
	304 調査研究Ⅳ	20							4	16										
	305 調査研究Ⅴ	20									12	4	4							
	306 調査研究Ⅵ	24														24				
	307 OJT報告会	8																	4	
	308 卒業制作発表会	8																	4	
	309 技能照査	8																	8	
その他	401 入学式	4	4																	
	402 卒業式	4								4										
	403 オリエンテーション	8	4							4										
授業時間合計			1,364	8	124	114	106	106	132	8	8	124	114	124	178	202	16			

図表-8 東京建築カレッジ開講科目（履修学期別）2

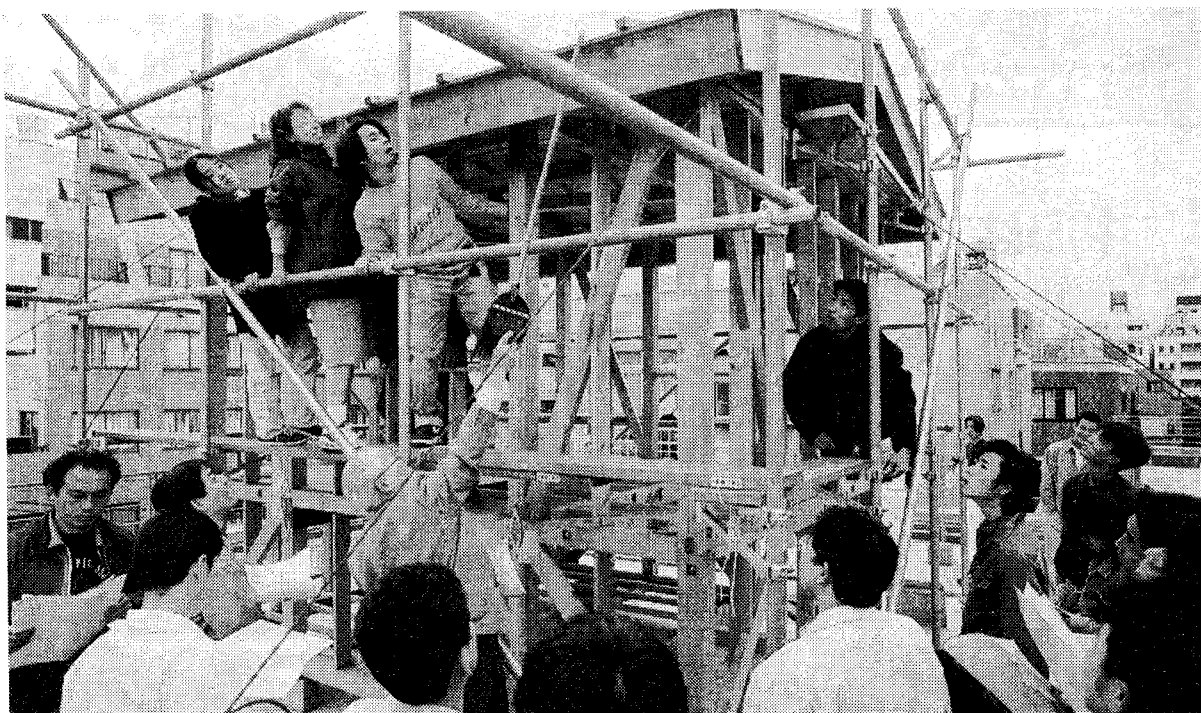
4. 教育訓練の特徴（実技中心に）

（1）実技（実験・実習）の指導について

- ① 木造施工を中心として、実習をベースにした視点での指導である。
（道具づくり・継手仕口加工・造作技術・仕上加工・規矩術等）
- ② 座学と実験・実習との連携に於いては、現場との結びつきを強調することで、系統的な理解を図っている。
- ③ 構造実験・材料実験は、集中的に実施している。
- ④ 評価方法は、授業科目ごとに終了時に試験を実施している。
また、レポート・製図等の課題、未到達者への補習も適宜実施されている。

(2) 実技（実験）科目に関わる教材・教具・テキストについて

① 木造2階建実習



図表-9 1期生が上棟した建物で学ぶ2期生

- ② 建築CAD（DTP・2次元・3次元）による設計製図
- ③ 材料・構造実験

(3) 生産現場実習について

- ① OJT方式により、現場実習の一部（1日1時間、1週4時間）が授業時間として認定される。
- ② 生産現場実習は非常に効果的であり、多様な展開につながっている（図表-10参照）。
- ③ OJT報告会では、分散教育のOJTの成果を公表・報告し、評価する。

(4) 課題演習について

課題演習は、集合教育での学習を補完するとともに、実務および地域社会等との接点における様々な経過を通して、“心・技・体”の実践的能力の形成をめざす。

課題演習の学科目扱いと実技科目の扱いは、「分散教育」および「その他」を除く開講科目の学科目および実技科目の比率でわけるとする。

課題演習は、主として集合教育各教科目の演習を行う科目である。演習問題、課題製作（設計製図、模型、学習課題）、実験・実習レポート作成、学科目の宿題等からなる。

課題演習の時間は540時間とする。内容は、各授業科目の課題演習の項目による。

作業名	具体的作業	C211	C212	合計	
		1年次 実習時間	2年次 実習時間	実習時間	
1 大工作法	①大工作法	7		7	
2 安全衛生作業	安全衛生	7	7	14	
3 道具づくり	手工具と使用法	14	14	28	
4 仮設工事作業	①準備作業 ②基本作業	7 7		7 7	
5 土工事作業	①根切り, 地山の見方 ②土止め, 本貫	7 7		7 7	
6 基礎工事作業	①レベル, 墨だし	7		7	
7 木拾い作業	①材料の準備 ②木拾い実習	7 7	7	7 14	
8 切り込み作業	①作業準備 ②切り込み, 削り実習	7 14	7 14	14 28	
9 建て前作業	①準備作業	7		7	
	②土台	7	7	14	
	③建て方作業	7	7	14	
	④上棟式	7	7	14	
10 下地づくり作業	①床作業	7	7	14	
	②壁作業	7	7	14	
	③屋根作業	7	7	14	
11 造作作業	①準備作業(墨だし, 加工)	7	7	14	
	②造作加工作業 型板おこし	14	21	35	
	③取り付け作業	7	7	14	
12 関連工事作業	鋳金工事 左官工事 内外装工事 建具工事 タイル工事 塗装工事 畳工事 家具工事 エクステリア工事 仕上げ工事 雑工事		21	21	
13 2×4木工事作業	①プレカット作業現場実習・見学	5		5	
	②プレハブ木工事作業 2×4木工事作業		12	12	
14 設備工事作業	給排水衛生・ガス設備工事 電気設備工事		7	7	
15 増改築作業	増改築作業		7	7	
16 設計・営業	設計・営業の実務		7	7	
	時間計	180	180	360	

図表-10 OJT 現場施工実習の内容

(5) 卒業研究について

卒業製作の科目は、分散教育の一つであるが、卒業製作は、履修科目の知識と技術・技能の総括を合わせたものとする。卒業設計、卒業計画、卒業製作のいずれかについて各自またはチームでテーマをもち、製作する。

2年次の第4期、第5期にかけて取り組み、144時間とする。

- ① 準備作業, テーマの設定
- ② 製作作業
- ③ 中間発表
- ④ 継続製作, まとめ

なお、卒業製作発表会は、「総合」の科目の一つとして、開講科目「卒業製作発表会」として行う。

卒業製作発表会

卒業製作は、履修科目の知識と技術・技能の総揃いを合わせたものとし、卒業設計、卒業計画、卒業製作のいずれかについて各自またはチームで製作し、発表会をもつ。

(6) 特色あるイベントについて

- ① 伝統建築などの調査見学会（奈良）
- ② 全国職業訓練生交流集会
- ③ スポーツ大会・宿泊研修

(7) 技能照査について

- ① 2年間の教育訓練の成果を確認するもの。
合格者は修了の資格を得るとともに、“技能士補”の照合を獲得する。
- ② 実技課題は、隅木の製作（2日間14時間）を実施している。

(8) その他

- ① 2級建築士受験
- ② 事業主へのカレッジニュース配布による広報普及活動

5. 学生指導（人格形成）

- ① 個人の技術レベルアップを図ると共に、共同実技により協力体制を体験する。
- ② 友人との付き合いや生活リズムの確立を図る。
- ③ 現場の厳しさを知る。
- ④ 日報（日誌）の重視によるコミュニケーションの確立。

1997年5月9日 (金) 東京建築カレッジニュース No.1



新しい世紀に向けて お互いがんばろう



鎌倉第一学校長

今年は一回生四五名を迎えていよいよフル回転に入ります。昨年、一年生だけの慣らし運転でした。車にたとえれば初めての道をただただすらすら走りおした、という感じでした。何しろ、車も、運転するものも、乗客も、なにもかも初めてくめでしたから、うまくいかなくて仕方がないか、と思っていたのですが大きな過失もなく、2年目を迎えることができました。一回生の諸君、指導の諸先生、事務員の皆さん、無

事と交えによるものです。倍旧の協力をお願いいたします。

今年、昨年の経験もあり、先輩としての二回生の協力も得られるので心強いですが、実習場が手探のため進捗と遅滞の二面所で分散して行なわれはなりません。昨年とは違った苦労をかけることになりま

ゆとりとまじり

が求められる時代

今年の入学式式辞でも話したことがありますが、二世紀はもうすぐです。今年入学された諸君が卒業するのは、

一九九九年三月、今世紀最後の年に業立つことになるわけです。二世紀の建設産業を切り開き、担う人材として大いに期待しています。

二世紀を切り逃してこまますと、大きな戦争や革命もありました。科学技術も、経済もかつてなかったくらい大きく発展しましたが、激動の世紀でした。大量生産、大量消費、でもあり、地球環境、資源・エネルギー問題を発生させることになりました。

住みよりの技術の学習を広く

新しい世紀は、環境人間が共生し、ゆとりとまじりながら求められる時代だと書かれています。わが校の二十年の歴史は、住宅産業を建設するための高度な職業に必要な能力の基本を「大工技術」においています。この住みよりの技術の技術は、環境・資源との関わりも深く、これを幅広く学ぶことで建設全般の仕事に貢献するところは多いはず。新しい世紀に向けて、お互い頑張りましょう。

カレンダー日誌

- 四月
 - ・3月米より鎌倉実習場(旧鎌倉土庫会館)の改修工事すすめる。
 - ・六日 新入生入学式行なわれる。
 - ・七日から九日間鎌倉実習場にて集中授業行なわれる(一年生)
 - ・十一日 二年生授業開始。講師校長講話/労働者職業能力開発院院民間訓練室長のカレッジ招致
 - ・十二日 新築実習室委員会行なわれる。進級者、入学者確認。講義校からカリキュラム見直しについて対面の集い行なう(後:新築実習場)/労働者職業開発院からカレッジ概要及び女性学生聞き取り調査。/新一年生歓迎会行なわれ
 - ・十六日 集中授業終る。
 - ・十七日 矢野正彦委員長「東京土庫とカレッジ」で講演(一年生)。
 - ・二十日 カレッジ事業実施状況。事業計画を話し出す。
 - ・二十五日 五時限目実施。卒業製作班のガイダンス行なう(二年生)。
- 五月
 - ・三日 教育推進委員会行なわれる。
 - ・八日 センター理事会行なわれる。

1997年6月20日 (金) 東京建築カレッジニュース No.2

日報から (25日)

* 時間というのはカレッジとして業の業を食べる業。私にとって新路線にのって、あとというまに目的地に到達。(寛彦)* 今日前回やり残した宿題をかたづけることができた。けどカネバカリ図が終わっていないので明日か来週には終わらせよう。(蒼龍)* 午後は一年生が、鎌倉

に行ったので学校が丘々々と思えた。(大野)* カネバカリ図終らず(高橋亮)* かなはかり・とても細かくて大変。先生は慣れれば一番簡単というが、本当か? コツをつかみたい。!! (うきの)* 私水でかたどりを作りました。明日の丸水加工がたのしみです。(豊田)* 作業している時の日差しが温かかった。まだ明日がはばば。(川上朝)* 理り線の間風を切め

て作ら。とても興味深く、焼物にしてやる。(大野)* まわり階段をやっています。(スミの) 図を書いてもどうなっているのかよくわからなかった。でもだんだん完成図みたいのがわかった。わかったらな、おちうような。むずかしいです。でも楽しいです。(龍口)* なげしが出来たよかった。(蒼龍)* だいたいは、きたく、まぶさる。最後まで出来た。(千明)

* 回りぶちとめがらましくいす残念。(龍崎史)* 私水にスミをひける。今日は全体的によかった。来週も楽しみです。(龍本)* 今日の実習はとても充実しました。(金井)* スミも頑張る。嬉しい。丸水のすみつけは大変だった。(大野)* 一日充実した。よき日だ。(龍崎)* 今日一日あつらいました。(龍崎)

研修生に期待するもの 事業主から

研修生は5

* 手を抜かず、きちんと仕事すること。お客様の気持ちがあはるとい。(松本敏幸・一年松本君事業主)

* 仕事への自信のもてる人。積極的に仕事に取り組んで行ける人(川上朝知子・二年川上直樹君事業主)* 製品を完成まで完全に従事出来る人。の技術をもつた人になしてほしい。相手の話をよく聞き、二工を適確に理解出来る人。に嬉しい思いやりのある人。技術の向上を目標にする人間。(清川善夫・一年土間君事業主)* 仕事を早く教えること。下職も上職の流れを覚えてもらう。(川口剛男・一年川口君事業主)* 建築全般をおぼえ幅広く知識を身につけてもらう事(一年保坂めぐむ君

事業主)* 自分の方で覚えていける人間になって欲しい。(岩崎三郎・岩崎君事業主)* リン・タイムの責任者(龍崎弘道・一年小田さん事業主)* 建築全般を基礎から学習してすべての建築技術を身につけてほしい。(高山哲夫・一年宮井君事業主)

住居アールに参加して

原良之(一年生) 君

住居アールには今回、初めて参加しました。会場の雰囲気はひとりで、約二〇名。住宅相談、竹とんぼづくり、包丁つきなどがありました。江戸川でやって好評だった「雨風ホラント」を現場でもとらうことで、区民の家に、雨風全量をひびく活動もありました。打ち合わせの会議に出ましたが、予定していた人が行けな

* いまのまほすはおでもらった仕事の出る人になってもらいたい。(大野博敏・一年大野君事業主)* 仕事をまかせられるよう、又、お客様に喜んでもらえる仕事出来る確立業は大工になって欲しい。(小野善男・二年今泉君事業主) (つづ)

くはつて、しゅあつらうこと話が行くことになりました。もう一人の方と通いでいきました。木連二戸建ての老人家庭で、本がたたくさんありました。本棚二つと棚のタンスに貯蔵の金具をつけました。老人の手でたたくはなかなかできないこと、喜ばれました。感觸としては、タンスが倒れるまでに、本が落ちてくると危険があるので本のはたつきも感觸とりました。(龍)

全国職業訓練生交流集会

1997年6月24・25日

六月二十四・二十五日に佐賀県にて行われた第二十
五回全国職業訓練生交流集会にカレッジ生も数として、
二年生の藤本隆士君と一年生の長谷川大君が参加しま
した。他校でかかっている訓練生との交流で得たも
のは多かったようです。

職人になったきっかけを また一つ体験

2年生 藤本 隆士

私はこの交流集会に参加できて
とてもよかったです。

その理由は、交流会という名の通
り、全国のいろいろな地域の、私と年
齢もあまり変わらない人たちと交流
を持ち、そして友達になれたからで
す。

自分の学校の中では、東京都周辺
の話題しかでてこないのが、全国の
建築にとっても興味があつたので、だ
くさんのことを話し合いました。
自分が特に話し合いたかったのは、

職場での環境と職人になったきっかけ
です。

まず、職場での環境の方は親のもと
で働いている人が、家ではなく他の親
方のもとで働いている人の意見を聞
きました。みんな年齢が近いだけに、仕
事内容や職場に対する不満などは似
ていますが、他の人たちの話を聞いて
いると精神的にも精神的にも、自分が
環境のよいところで働いているのだな
あと思いました。

二つ目は職人になったきっかけです。
同じ班の人たちの話を聞いてみると、
同じような理由で職人になっていると
思いました。しかし、自分の場合は勢

いみじなもの、職人になつてし
まったよな気がします。でも仕事を
しているうちに楽しくなり、職人にな
ろうと思えました。だから、職人にな
ったきっかけよりも、仕事を
してみ、職人になるというきっかけ
を見つけたのです。

この交流会も自分が職人になつた
きっかけの一つになつたと思います。

全国職業訓



あのゴールの味は忘れないよ

1年生 長谷川 大

本州から足を踏み出したことのない
僕にとって、佐賀県での交流集会参加
は楽しい旅行になるだろうと期待をま

られました。そして、同じ職業にたず
さわるもの同士が、これからの大工職
人、工業技術者などのような意識を
持っているかも知れませんでした。

話し合いの場では班員が一新阻害し
て断問題について語り合いました。
そして、みんなが抱えている悩み、
問題は、北から南までほとんど違わな
いことに安心する反面、希望がわいて
きました。ただ、あまりに時間が短い
ため解決策を練るところまでではいけな
かったのが残念です。

第25回全建設連全国職業訓練生交
流集会が成功のうちに終わつた今、僕
たちはみんなで出し合つた課題をもつ
とちつと蓄積して、未来のよりよい家
づくりに励ませてもらおうと思しまし
た。

班員の皆さん、楽しませていただ
いてありがとうございました。
藤川さん、多田さん、そして兼光さん。
あのゴールの味は忘れないよ。

飯能・西川材原産地 調査見学

1997年
6月26日

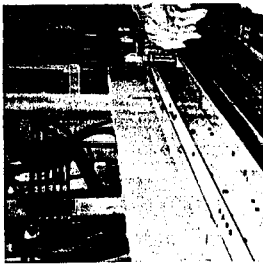
六月二十六日に飯能市のアスカット工場、木材は既製機、産産ネット
ロープ、木製の会、木製住宅通工現場を(一年生二年生で見学)しました。(以
下、調査見学レポートより抜粋)

一年生 小島山 政和

●「アスカット」

アスカット工場

昔頃我ががやっていた仕事が機械
ではあつたという感じにきてしまうの
を見て、少し驚きらしく思った反面、
これから先アスカットになつてしま
つて、我々の仕事は現場の施工し
かなくなつてしまつてはないかと、
不安を感じた。



●「大塚製材」製材工場

丸太から角材を作るには一面を二
回切断する。一回だけだと木が曲が
るので計八回切断を行う。

初めて原木から製材を行う行程を
見学する事ができ、とてもよかったです。

●「山林伐採現場」

木は上から下に伐採するそうで、
植林はランクスアスによつて行い、
見学した場所の広さは四十から五
十人で一日で植林してしまつた。

●「木夢の家」

木製住宅通工現場

昔ながらの技術を駆使して木交いや
釘を使わずに二層までの家を建てる
ことのできるというところを見せてく
れた感じが、二層まで手のこん
だ家は初めてみました。自分の技術



をもっと磨いて一度でいいからこ
んな仕事をしてみたいと思つた。

● まとめ

アスカット工場、「木夢の家」施
工現場。この二つは価格・技術の面
で両者の位置にあると思う。普通の
町大工は現在この中間に位置してい
て、今後どちらかに寄つて行きつづ
めあると思う。というよりそんなな
い、これからは生き残れないのでは
ないだろうか。

また「木夢の家」のやっている工
事をすべての家に取り入れて施工す
ることは無理としても、仕口や継手
などを再度大工全体のレベルとして
考えて行くべき時期に来ているのだ
はないだろうか。

二年生 福島 昭彦

アスカット工場を見学し、改めて
その正確さと工場における生産性とか
オリイの有名を思い知らされた。

最終的なチェックは人間だが、殆ど
全自動化してある。準備から考える
と、ものなんじやないかと思つた
が、工場で木打らをしていておじさ
んは「10まで正確に刻める。しかし
ねえ」と言つて遠い目をしてた。多
分何が気にならんたろうと思つた。

木は既製現場に行つた。我々中小
企業の上野店も材木を使う以上、山を
丸裸にしていくことに耐えているわけ
だから、何らかの形で植林に携わら
うと思つた。山はえらい。

最後に「木夢の家」の仕事を見させ
てもらつたが植林された。土台に検査
しては全部杉材。丸柱が打つて
あつて筋交いなし。恐れ入つた。

見学が終わるまで昔匠職の人たちと
杯飲んだが、皆自分なりのイデオロ
ギを打ち合せていて、話していてと
ても気持ちのいい人だつた。今後は
こちらが見学させて貰いたい。



セメントを曲げての強度訓練。講師の話をきく研修生の目は真剣です。

きびしい世の中だから カレッジで学ぼう

東京建築カレッジ 3期生を募集中

伝統技能の基本から

高度な専門知識、技能を学ぶ

東京建築カレッジは、東京土建五十年の歴史をふまえ、建築技術・技能養成、産業後継者養成の取り組みにたいする組合としてのイニシアチブを示す事業として一九九六年四月池袋に開校しました。

本領域を施工、設計、構造にわたって、伝統技能の基本から高度な専門知識、技能まで総合的に学びます。現代的技術と技能をともに更新しい時代の建築スペンタリストの養成をめざします。

一期生は二十八人、二期生は四十人、女性は一期生二期生あわせて九人。一人ひとりが希望をもって学んでいきます。

募集資格 建築の仕事にたずさわりながら建築技術・技能を学びたい方

二年制で、週日(金)、土曜日登校。一年間二千八百四時間学ぶ職業能力開発短期人学校です。現場も学校も学校も仕事の現場という位置づけで、現場と学校の結合をめざします。

カレッジは、木造建築、住宅づくりを中心としながら、鉄骨、鉄筋をふくめ建築の基礎を学びます。



自分たちで墨付から刻みをして、上棟までやりとげました

【町田・大工・吉沢良朋記】
僕は七月の四月に東京建築カレッジに来るまで、五、六年現場で働いてきました。新築もあれば、改築もあれば、リフォームの内装もあつた。型枠の作業主任者の資格を得るために、東京土建技術研修センターにきてカレッジのことを知りました。

建築の仕事をもっと決めた以上は、知らないことは少なからず勉強しようと思う。それが、自分が必要な人生を歩むための、仕事とカレッジで学ぶ勉強に、確かな手応えを感じる。

いま、仕事も勉強もわかれやうたが、自分のものになるという手応えが、カレッジで学んで、はじめて得た。建築士としての誇り、責任、そして、仲間との絆。これらは、現場で学ばないで、カレッジで学んで、はじめて得た。

ばいある、というところから、勉強したいという思いが、いま、カレッジで学んで、はじめて得た。建築士としての誇り、責任、そして、仲間との絆。これらは、現場で学ばないで、カレッジで学んで、はじめて得た。

建築士の資格もつきたい。カレッジで学んで、はじめて得た。建築士としての誇り、責任、そして、仲間との絆。これらは、現場で学ばないで、カレッジで学んで、はじめて得た。

東京建築カレッジの研修生は、建設現場に従事していることが条件です。現場作業もカレッジの学習の一部に位置づけられているからです。

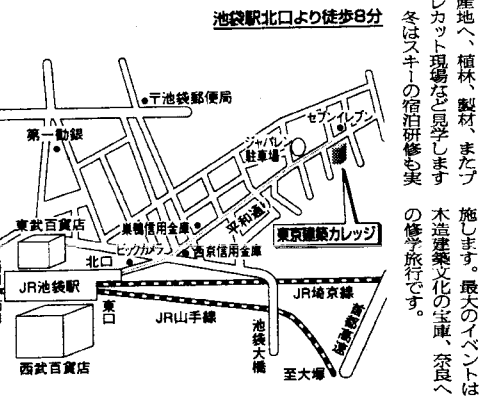
若くて有資格な人材を職場でカレッジで学ばせてあげたい。カレッジで学んで、はじめて得た。建築士としての誇り、責任、そして、仲間との絆。これらは、現場で学ばないで、カレッジで学んで、はじめて得た。

組合のよき後継者に

東京土建技術研修センター 和田 定雄 理事長



東京土建は十四万四千の技術者。住宅が安心、暮らしやすい、責任を負うのは私たち。建設職人です。カレッジはこうした建築現場で働く者の立場に立つて組合の仲間を、組合のよき後継者に育てたい。組合のよき後継者に育てたい。組合のよき後継者に育てたい。



第3節 人材育成で見えてきたこと

— 「東京建築カレッジ」の経験から —……………学校長 藤澤好一

「東京建築カレッジ」では平成10年（1998）3月、最初の卒業生を送り出すことになる。研修生たちは技能照査を終え、いまは卒業制作に取り組んでいるところだが、残り少なくなった本学での学習の佳境の領域ともいえるところだ。それぞれのフィニッシュのありようが、その後の職業生涯にどのような影響をもたらすのか、われわれスタッフや指導陣にとっても、期待と不安が交錯する最終コーナーにさしかかっている。この2カ年間のなにごとにも手探りの取り組みであり、予定のカリキュラムと行事スケジュールをそれなりに消化してきたとはいえ、ゴールがようやく見えてきたこの段階では、編集から要請があった「人材育成と短大経営の考え方」はまだまだ流動的で固まったものではない。この2カ年を振り返っての個人的な意見を開陳するにとどめたい。

まずは、彼らが入学してきた2年前のことをふりかえってみるとこうだ。入学してきたのは33名だった。その顔ぶれはさながら「乗り換え駅」を見る思いだった。入学者の学校歴が実に多彩で、高校の普通・工業・商業をはじめ、専門学校、大学など様々、分野も文学、法学、経済、工学など多岐にわたっている。入学者は仕事をもちながら学校に通うことになる。ほとんどが工務店などの建築関係の仕事についているが、大工の基本技能の修得と周辺の技術、素養などを学ぼうという若者たちだ。なかにはこの学校に入るために転職したものも少なくない。

この33名の顔ぶれを見て、わが国の教育システムの制度疲労の一端を見る思いだった。つまり、わが国が戦後一貫してとってきたのは教育の単線制である。その延長線上に年功序列・終身雇用の組織体制が敷かれてきた。同じレールから落ちこぼれない、遅れをとらない競争が日本型システムを特徴づけてきたが、これが産業社会の変化とともに崩れつつあるというのがおおかたの見方であった。その兆候が本学での「乗り換え駅現象」といえるだろう。欧米では、学校でも、職業生涯でも、乗り換え可能な路線が敷かれている。日本もそのような複線型へと流れは変わりつつあるようだ。

本学への通学は原則、金曜日と土曜日の週2日、残りはいわゆるOJTで、それぞれの仕事場が教室、事業主・先輩たちが先生で実務を通じてポイントを学ぶ。入学当初だけは集中的に登校するが、約1ヵ月間の研修生の行動を見ていると目の輝きは実技と座学とはまるで違う。総じて座学を嫌らうが、勉強嫌いとは違う。言い換えれば知識の切り売りの限界を体験済みの連中なのだ。

この学校の設立母体が労働組合というのが特色の一つだ。都内の建設労働者12万人で組織する東京土建という組織だから、組合員の中から腕もたち、指導にも優れた人たちを集めやすい。30人近いこうした指導者が若者たちの目の輝きに呼び寄せられるように懇切な指導が始まっている。新しいワークショップ型徒弟制ともよべるものだが、すべり出しはまずまずであった。

私はこの学校の構想段階から参画していたこともあって、学校長を引き受けることになったのだが、計画段階で参考にしたのは、ドイツ建設産業の職業教育制度だった。ドイツでも、大学への進学傾向が高まり、大衆化が進んでいるとはいえ、若者の3分の2は職業教育の道を選んでいる。だが大学などの高等教育と職業教育の間には、職業訓練の経歴を専門大学の入学資格として認定するなど相互乗り入れの制度が設けられている。

私たちはこのドイツの建設産業からは二つのことを学んだ。一つは教育に対する産業の関わりかた。生産と教育をうまくバランスさせたマイスターの伝統もあるが、企業と職業学校の二つの場所で行うデュアル・システムとよばれる制度だ。建設産業では、これを発展させ、第三の場「超企業職業教育センター」を設けている。その背景はわが国にも共通している。職業教育を行う事業所の多くが小規模で、生産活動も変動的なこと、技術変化の速度が早く、かつ担当工程も細分化が進み、教育に適したOJTの

現場が恒常的に得られ難くなったこと、また、個々の経営者（マイスター）たちの指導にはバラツキもあり、基本的な技能訓練を網羅的、体系的に行う集合訓練のプログラムが必要になったからだ。

もう一つは、産業の後継者は自らで育てるという姿勢。産業独自の基金（ソーシャルカッセ）が設けられており、様々な福利厚生や育成のための費用にあてられる。教育システムと社会保障を並立させている。労使間の協調もあつてのことだが、要は居心地がよくて、仕事に誇りがもてる環境の整備が条件である。

このような基幹人材の育成は、わが国でも建設産業に限らず中小企業全般の課題でもある。地域社会とかかわりが深い小規模な産業活動が重みを増してこそ、地域の経済や文化が成熟し、それらを支える職業人の誇りにもつながるわけだが、それらとうまくつながった教育システムの構築が求められているのである。

当初はまずまずの、外からは順風の船出のようではあったが、日が経つにつれ、予想した以上にその航路が多難に満ちたものであると感じるようになった。それとともに新しい時代の建設産業を担う人材を送り出す責任の重さが日増しにつのってきた。その責任というのは、大きくいえば二つである。一つはどのような人材として送り出せばよいのかということ。つまり訓練の内容、質の問題である。もう一つは、仮にそうした人材を送り出せたとして、はたして彼らが生涯を託せる、誇りがもてる仕事・職場なのだろうかということ。つまり受け入れる産業側の問題である。

この船出は、例えるなら航路の定まらない出帆みたいなものかもしれない。ともあれ船首の方角は、障害物を避け、吹く風、潮の流れなどを読みながら港を後にした、というところだろうか。

手探りに近いこれまでの取り組みを振り返ってみると、羅針盤の役割をはたしているのは、これまでのところ良くも悪くも研修生たちの反応であった。彼らの反応に確かな手応えを感じたからだが、カレッジ側のスタッフの熱意、意気込み、努力はそれによってどれだけ力を得、増幅されたことか。しかし、彼らの目の輝きや意欲だけを頼りにするわけにはいかない。確たる指針は、産業が、組織が、携わる人々が、共通に持っているべきものなのだが、それが明確にできない現状が問題なのだろう。

これまでの取り組みを通じて私なりに「見えてきたこと」、つまり育てようとしている人材のイメージは次のようである。

一. 基本技能を備えていること。

法隆寺大工・西岡常一は技能知のことを頭の記憶ではなく「手の記憶」といつているが、モノづくり、形のあるものをつくる能力の基本は手道具を扱い、使いこなすということ。カレッジでは、道具づくりや扱い、これを使った工作に力を入れている。将来、目指す道は必ずしも大工ではなくとも、これには個人の力でモノをつくる能力の基本が濃密に含まれている。機械化、分業化が進んでいる現在社会において、その能力をつけることは貴重である。カリキュラムの中でOJTを重視しながらも、日常の仕事ではその機会が無くなっていることからいっても重視すべき訓練といえる。

二. 総体がつかめること。

細分化、断片的な作業、しかもめまぐるしく材料や工法が変化する中で仕事に追われていると、他との関係、全体の仕事が見え難くなる。設計から施工、施工のさまざまな役割・方法などに触れてみる機会をもつことで関係者の役割を理解し、全体を見通せる能力は重要、カンナにもパソコンにも製図台にも触れて、慣れる、ことをカリキュラムに盛り込んでいる。

三. 協力しあうこと。

建築という仕事はいろいろな役割をもつ人々が組織的に関わる。分断、孤立、閉じこもりがちな日常の仕事の中でいろいろな仲間をつくり、協力しあうこと、注文者や近隣社会とのコミュニケー

ションも欠かせない能力である。

四. 時間の流れが読めること。

能力と能率は、自らがどれだけ時間と努力を費やしたかの結果である。カレッジでは制作に要した時間を計測しているが、結果は正直である。出来上がりの質も当然評価の対象になる。こうした過程を積み重ねることによって、正当な作業標準、積算根拠、人材養成コストなどのデータが蓄積できるはずである。そうした正当な能力評価は処遇の根拠としても有用だろう。

五. 自信をもつこと。

個々の能力は多様、それぞれに個性がある。その能力を引き出し、伸ばしていくことは、言うは易し、行うは難し。偏差値教育、単線型教育の制度疲労は指摘されながらも改革は進展していない。しかし、カレッジの実技教育では組合員でもある指導員が研修生の能力に合わせた指導を懇切ていねいに行っている。達成感とは、なにかが人よりも早くできる、あるいは人よりもうまくできる。これが誇りや自信につながることはいうまでもない。

以上のような能力を備えた人材を送り出したいと考えているが、それにしても手間と忍耐と費用がかかる。当面は行政からの財政支援にたよらざるを得ないとしても、産業として組織的、自律的な取り組みが急がれる。ロボットなどの無人化に投資するよりも、人材への投資がこの産業の将来に花も咲かせ、実もつけさせることになるのは明らかだろう。

だが現実には実に寒々しいのである。志も高く、やる気も十分な若者たちが入ってきているにもかかわらず、週2日の登校を職場の先輩や仲間たちから快く思われず、陰湿ないじめや妨害に耐えられず、道半ばで挫折し、この産業とも訣別していった若者を出したことの無念さは言いようがない。本人の事情で退学したのものも含まれてはいるが、入学者33人のうち5人が脱落したことは残念である。

若くて、有能な仲間を受け入れるためにはどうあれば良いのか。この仕事に携わっているすべての人々の意識にも関わっている。

章末参考資料

1997年度 教科書・教材一覧

1年生

番号	科目名	教科書名(編・著者)	出版社
A101	建築史	建築概論(職業訓練研修研究センター編)	(財)職業訓練教材研究会
A102	環境工学Ⅰ	建築計画	実教出版
A103	環境工学Ⅱ	同上	
A105	住宅計画	自主プリント	
A106	建築計画Ⅰ	建築計画	実教出版
A201	建築材料Ⅰ	建築工事共通仕様書(公共建築協会編)	豊文堂(発売元)
A202	建築材料Ⅱ	同上	
A203	建築材料Ⅲ	同上	
A204	建築構造力学Ⅰ	自主プリント	
A205	建築構造力学Ⅱ	同上	
A207	建築構法	自主プリント	
A301	木造工作法	木造建築(職業能力開発大学研修研究センター編)	(財)雇用問題研究会
A302	安全工学	安全衛生(職業訓練研修研究センター編)	(財)職業訓練教材研究会
A303	木造施工法	建築工事の進め方(山室 滋著)	市ヶ谷出版
A401	コンピュータⅠ	自主プリント	
B101	基礎製図	建築設計製図	実教出版
B102	デザイン演習	自主プリント	
B103	プレゼンテーション	自主プリント	
B104	建築設計製図Ⅰ	建築設計製図 建築製図集 二階建専用住宅設計図製図例	実教出版 実教出版 実教出版
B108	建築環境工学実験	自主プリント	
B201	建築工学力学実験	自主プリント	
B203	建築材料実験	建築実習Ⅰ	実教出版
B301	木造工作実習Ⅰ	木造建築(職業能力開発大学研修研究センター編)	(財)雇用問題研究会
B302	木造工作実習Ⅱ	同上	
B401	コンピュータ実習Ⅰ	自主プリント	
C101	教養ゼミⅠ青年論	自主プリント	
C102	教養ゼミⅡ社会論	自主プリント	
C105	教養講座Ⅰ		
C107	保健・健康講座Ⅰ	自主プリント	
C109	スポーツ・レクⅠ		
C301	調査研究Ⅰ	自主プリント	
C302	調査研究Ⅱ	自主プリント	
C303	調査研究Ⅲ	自主プリント	

2年生

専門実技科目

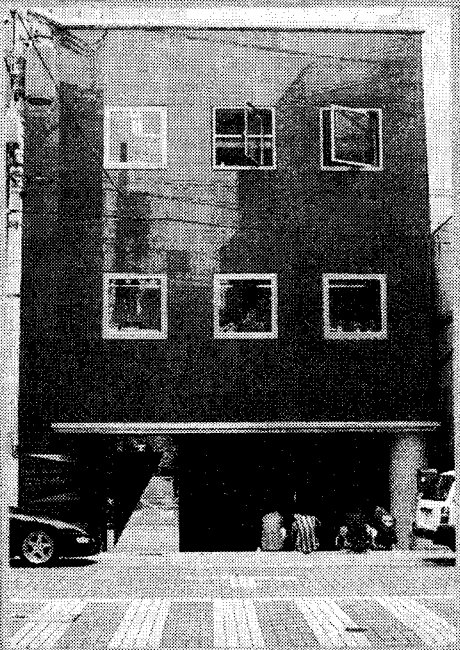
番号	科目名	教科書名(編・著者)	出版社
B105	建築設計製図Ⅱ	建築設計製図	実教出版
		建築製図集	実教出版
		木造2階建築住宅設計製図製図例	
		自主プリント	
B106	建築設計製図Ⅲ	同 上	
B107	建築設計製図Ⅳ	自主プリント	
B202	建築構造実験	自主プリント	
B204	建築構造設計製図	自作教材他	
B304	木造施工実習Ⅱ	同 上	
B305	木造施工実習Ⅲ	同 上	
B306	建築施工実習Ⅰ	同 上	
B307	建築施工実習Ⅱ	同 上	
B308	建築施工計画実習	建築施工管理の現場読本	彰国社
B309	建築測量実習	わかりやすい建築講座16 建築測量(崎山宗威著)	彰国社
B402	コンピュータ実習Ⅱ	自主プリント	
B403	コンピュータ実習Ⅲ	自主プリント	

専門学科目

A104	建築設備	建築設備学教科書	彰国社
A107	建築計画Ⅱ	自主プリント	
A108	建築法規	基本建築関係法令集平成9年度版 (日本建築士会連合会編集)	霞ヶ関出版
A206	建築構造力学Ⅲ	自主プリント	
A208	建築構造設計Ⅰ	自主プリント	
		木質構造建築読本	井上書院
A209	建築構造設計Ⅱ	自主プリント	
A304	建築施工	自主プリント	
A305	建築測量	わかりやすい建築講座16 建築測量(崎山宗威著)	彰国社
A306	建築積算	初めての建築積算	学芸出版
A307	建築生産	自主プリント	
A402	コンピュータⅡ	自主プリント	

卒業制作・研究等一般教養科目・選択科目

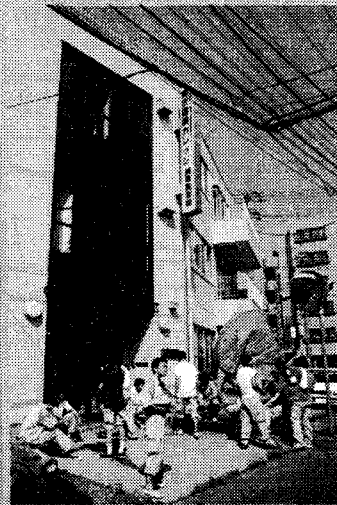
C103	教養ゼミⅢ —製作研究ゼミ		
C104	教養ゼミⅣ 建築政策		
C106	教養講座Ⅱ		
C108	保健・健康講座Ⅱ		
C110	スポーツ・レクⅡ		
C304	調査研究Ⅳ		
C305	調査研究Ⅴ		
C306	調査研究Ⅵ		



池袋校舎

東京建築カレッジ

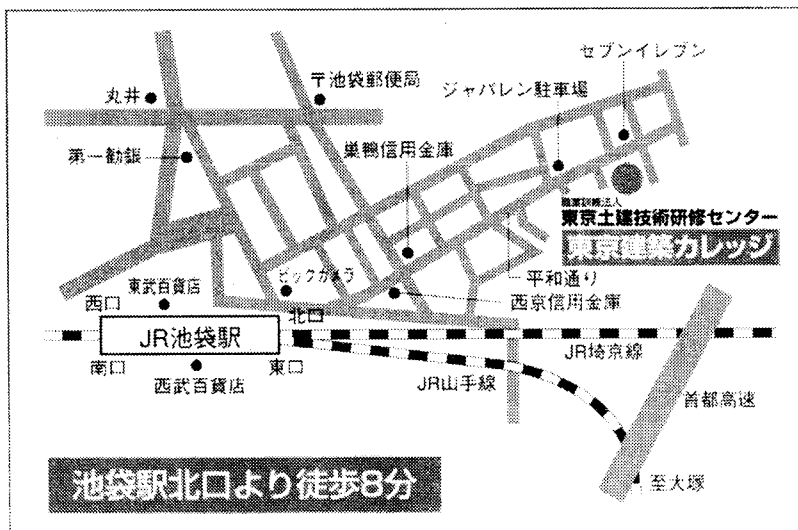
●地上3階 地下1階鉄筋コンクリート
●敷地326.55㎡ 延べ面積1027.30㎡



練馬実習場

(97年度より開設)

●地上3階 ●敷地234.75㎡ 延べ面積345.65㎡
練馬区高野台4-10-8



職業訓練法人

東京土建技術研修センター

職業能力開発
短期大学校

東京建築カレッジ

東京都豊島区池袋1-8-6 TEL03-5950-1771 FAX03-5950-1774